

FOYER



特集
金子三勇士ピアノリサイタル
〜新しいスタインウェイ625203を迎えて〜
熊本県立劇場主催事業
2025年度ラインナップ

熊本県立劇場 文化事業

Taiwan Philharmonic
Jun Märkl
Paul Huang Maki Mori
NSO 國家交響樂團

準備・メルクル(指揮)
ポール・ホアン(ヴァイオリン)
森麻季(ヴァイオリン)

台湾が世界に誇るトップ・オーケストラ。
音楽監督の準備・メルクルと共に、待望の来日！

シヤオタイワン
蕭泰然：フォルモサからの天使
Tyzen Hsiao: The Angel from Formosa
ベートーヴェン：ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op.61
Ludwig van Beethoven: Violin Concerto in D major, Op. 61
マーラー：交響曲 第4番 卜長調
Gustav Mahler: Symphony No.4 in G major

2025.5.31 (土) 14:00開演(13:15開場)
熊本県立劇場コンサートホール
全席指定 S席 ¥6,000 A席 ¥4,000
※25歳以下の方、障がいのある方は半額
※未成年者の入場はご遠慮ください
○チケット取り扱い 熊本県立劇場 096-363-2233 ほか (有料利用サービスあり；要事前申込)

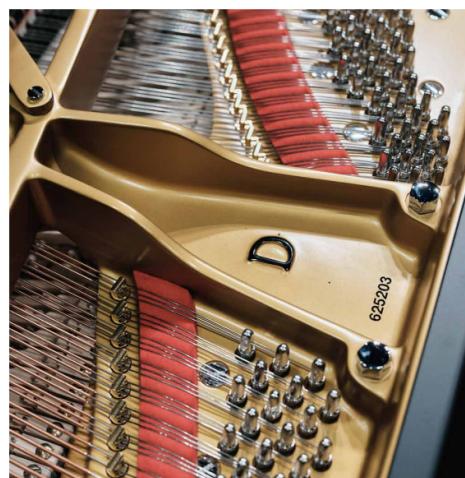
お問合せ=熊本県立劇場 096-363-2233 主催=(公財)熊本県立劇場 協力= 熊本電気文化財団 後援=熊本日日新聞社

熊本県立劇場
KUMAMOTO PREFECTURAL THEATER

【企画・発行】
公益財団法人 熊本県立劇場
熊本市中央区大江2-7-1 〒862-0971
www.kengeki.or.jp

【編集・制作・印刷】
株式会社 ジャム
熊本市中央区練兵町45早野ビル1階 〒860-0017
www.jam-cf.com

熊本県立劇場季刊誌 ほわいえ 2025 Spring 発行日:2025.3.20 ※掲載内容は2.28現在のものです。



Miyuji × 625203

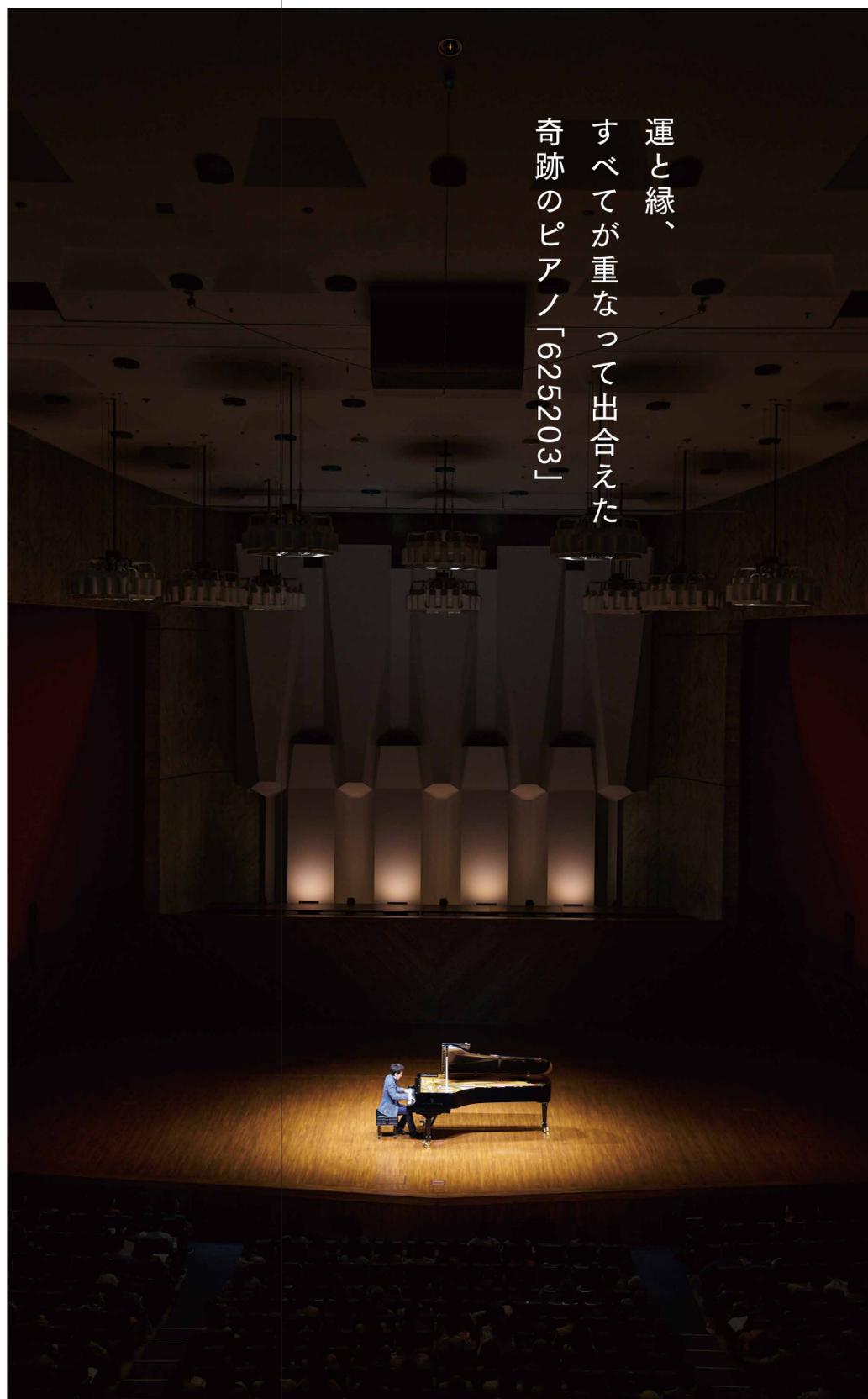
金子三勇士ピアノリサイタル

～新しいスタインウェイ 625203 を迎えて～

2025年2月2日(日)
熊本県立劇場 コンサートホール

〈演奏曲〉
ショパン：華麗なる大円舞曲
ショパン：夜想曲作品 9-2
ショパン：夜想曲作品 37-1
リスト：リゴレット・バラフレーズ
シューマン＝リスト：献呈
リスト：ラ・カンパネラ
ベートーヴェン＝リスト＝金子三勇士：
交響曲第 5 番「運命」ピアノ編
～熊本県立劇場オリジナルバージョン～

(アンコール曲)
パッサ＝金子三勇士：G 線上のアリア



運と縁、
すべてが重なって出合えた
奇跡のピアノ「625203」

多くの人の期待を受けて選ばれ、
育てられていく県立劇場のための1台

1982年の開館当初から熊本県立劇場で利用されていたスタインウェイ社のフルコンサートピアノ2台。これまで長期の運用計画を作成し、定期的な部品交換、修理、そして2度のオーバーホール(全体修理)を行って管理、維持してきました。通常のピアノの耐用年数が10年から20年といわれるなか、40年以上の間、多くの演奏家、利用者から愛され、ホールに感動の音色を響かせてきました。しかし、長期の利用について演奏家や保守を担当する業者からの意見もあり、2023年4月から新しいピアノの購入に向けた検討を開始しました。

検討をはじめて約1年後、熊



選定室にて県劇にふさわしい1台を選ぶ金子さん

本県とスタインウェイ社との契約を経て、県立劇場に新たに迎えるピアノの選定が具体化してきました。その県劇のためのピアノ選定を依頼したのが、スタインウェイ・アーティストでもあるピアノニストの金子三勇士さんです。2024年の8月、東京のスタイン

ウェイ・ジャパンの選定室には3台のピアノが準備されました。金子さんはピアノの位置を変えながらさまざまな曲を演奏し、それぞれの音色や響きを確認。そのなかから選ばれた1台が、今回の金子さんのピアノリサイタルで初披露となったシリアルナンバー「625203」です。

選定された1台は、県立劇場に納品された後、弾き込みという作業が行われました。これは、本来の響きを引き出すために新しいピアノの鍵盤をバランスよく弾いて慣らししていく作業で、熊本在住の15人のピアノニストが担当しました。弾き込みは、コンサートホール、演劇ホールのそれぞれで行われ、低音から高音まで鍵盤

を弾く作業をしたあと、ピアノニストが選んだ曲を演奏します。無観客のホールで行われる、いわゆるピアノの基礎トレーニングのようなものです。約4カ月間で合計39回の弾き込みが行われ、リサイタル本番の日を迎えました。



地域とともに成長していく
新しいピアノの音がホールに響きわたる

スタインウェイ社の新しいピアノのお披露目公演が開催された2月2日は、チケットが完売するほど、多くの人の期待が集まっていました。ガバメントクラウドファンディングでピアノ購入に向けた寄附金募集を行った経緯もあり、新しいピアノを目見ようと、公演前舞台上に佇むピアノの前には人だかりができていました。

新しいピアノの選定者である金子さんが記念すべき1曲目に披露したのは、ショパンの「華麗なる大円舞曲」。選ばれしこの1台を「パワフルでいて、ふとした瞬間に芯の強さのあるやさしい音を奏で、メカニズムの反応がとても良い奇跡のピアノ」と表現する金子さん。県立劇場のこれからの歴史とともに刻むには、この上ないピアノだったといえます。そのポテンシャルを引き出すために、華やかでいて、柔らかな、あたたかい音色を楽しんでもらえるよう、歴史に残る1曲目としてショパンの大円舞曲を選んだそうです。演奏の合

間のトークでピアノ選定のエピソード、これから演奏する作曲家や曲のストーリーを披露する金子さんの話に吸い寄せられるように会場が一体となり、新しいピアノが奏でる音色が、時間とともに緊張がほぐれていく過程を共有できました。

ピアノは多くの職人の手作業によって製作されます。丁寧に、魂を込めて、長い年月をかけて完成したピアノは、それぞれが1人の人間のような性格を持ち合わせているといえます。「新しいピアノは、県立劇場という場所、演奏者、観客、そして地域の方々、みんなが育てていくもの」。そう語る金子さんは、その最初の一步となるリサイタルで演奏するプログラムを、これからピアノがどう成長するか、県立劇場とともにどう歴史を刻んでいくのか、想像しながら組み立てたそうです。ショパンの夜想曲の後は、ピアノの魔術師と呼ばれるリスト作曲の「リゴレット・バラフレーズ」、リストが編曲を手がけたシューマン

の歌曲「献呈」、そしてリストの「ラ・カンパネラ」が演奏されました。

第2部では、これまで弾き込みで慣らしてきたピアノに「鳴」を入れるために、ベートーヴェンの交響曲第5番「運命」を演奏。ピアノのコンディション、観客の熱気と、ホールの空気感を感じながら、金子さんが即興でアレンジを加えた特別な1曲が披露されました。まさに二期一会、この日だけ、このホールだけが堪能できないひとときでした。最後のカーテンコールでは、金子さんがパッと手をかざし、演奏者の仲間として新しいスタインウェイ「625203」を紹介したのがとても印象的でした。



金子三勇士(ピアノ)
Kaneko Miyuji

コンサートを終えて

2024年8月にスタインウェイ・ジャパンで選定を行ったときから、実に6カ月ぶりの「625203」での演奏でした。弾きこみによってどんな音に仕上がっているのか、とても楽しみにしていました。このピアノは、楽器としてのポテンシャルが高く、これから何者にもなれるくらいの未知数のものを持っています。県立劇場のホールで、演奏する人に愛され、県民に愛され、地域で大事にされる存在として、どんな成長をしていくのか期待しています。

【県劇 NEWS】

演奏家派遣アウトリーチ事業

2024年・2025年登録アーティスト紹介

熊本県立劇場の「演奏家派遣アウトリーチ事業」は、市町村と共催で、小中学校や福祉施設などへ演奏家を派遣し、出前授業を実施するものです。ホールや体育館を使った鑑賞会ではなく、音楽室などの小さな空間で、生の演奏を間近で聴きながら、クラシック音楽や邦楽の魅力を伝えることを目的としています。

派遣する演奏家は定期的に実施するオーディションで選ばれた熊本出身のアーティストたち。オーディションでは演奏能力はもちろんのこと、プログラム構成、コミュニケーションや対応力などの幅広い観点から、アウトリーチに適性のあるアーティストを選定しています。2024・2025年度は新たに以下の3名のアーティストが登録されました。



トランペット/木原朱音(きはらあかね) ソプラノ/高木佳央理(たかきかおり) クラリネット/中野純寧(なかのあやね)

新しい登録アーティストの3名は、2024年の1月に3日間の研修を実施後、2月の模擬アウトリーチを経て、9月から各地の小中学校に出向いて演奏を行います。

芦北町や南小国町などでたくさんアウトリーチを実施した木原朱音さんは、「楽器に触れるなどの体験をもらうことで子どもたちの顔が輝き、より興味をもって聴いてくれることを実感しました。

そういった体験型のプログラムを入れられるのは、間近で接することができるアウトリーチならではの、次年度はよりコミュニケーション能力を磨き、子どもたちが最初からリラックスして聴いてくれるよう工夫したいです」と話してくださいました。

ひとりでも多くの方の音楽と出会うきっかけになれるよう、県立劇場では今後も継続してアウトリーチ活動に取り組んでいきます。



中野純寧さんによる、あさぎり町内の小学校でのアウトリーチの様子

ホワイエサロンシリーズ

ホワイエのみを利用した催物です。開放的な空間で彩り豊かな舞台をお楽しみください。

vol.11 芬の集(かおりのつどい)

5/10[㊤] 開演 14:00
 県立劇場 コンサートホール ホワイエ
【全席自由】3,000円
※25歳以下の方、障がいのある方は、半額

それぞれが全国コンクールで最優秀賞を受賞している新進気鋭の箏奏者3名のユニット「芬の集(かおりのつどい)」の演奏会です。春の午後、心洗われるひとときを県立ホワイエでお過ごしください。

出演/清原 晏、長谷由香、細川喬弘

vol.12 朗読 夢十夜

8/31[㊤] 開演 18:30
 県立劇場 コンサートホール ホワイエ
【全席自由】3,000円
※25歳以下の方、障がいのある方は、半額

県内外で活躍する俳優が夏目漱石の名作に朗読で挑みます。姜尚中館長もナビゲーターとして登場。「夢十夜」を夏の夜の県劇ホワイエで。

出演/大迫旭洋(不思議少年)、井芹誉子(劇団「石」)
 ナビゲーター/姜 尚中(熊本県立劇場 館長)

vol.13 ホワイエ新能

2026年 開演 18:00
 2/7[㊤] 県立劇場 コンサートホール ホワイエ
【全席自由】4,000円
※25歳以下の方、障がいのある方は、半額

コンサートホールホワイエに能舞台が出現!ガラス窓の向こうで篝火を焚き、幽玄な雰囲気なかで能・狂言を上演します。劇場の内と外を融合した幻想的な空間で日本の伝統芸能をご堪能ください。

能/船弁慶、狂言/樋の酒
 出演/狩野了一、野村万禄 ほか

けんげきキッズプログラム

昨年度からスタートした子ども向けプログラム。2025年度もより劇場に親しみを感じてもらえる3演目をご用意!

九響 0歳からのオーケストラ

4/19[㊤] 開演 14:30
 県立劇場 コンサートホール
【全席指定】
 一般(高校生以上)3,000円
 子ども(3歳以上)1,000円
※3歳未満ひざ上無料。3歳未満でもお席をご利用の場合は有料となります。

0歳から入場できるクラシックコンサート。泣いたりぐずったりしても大丈夫!"ほんもの"に触れることを通して、子どもの感性が磨かれ、ゆたかな日々をおくってほしい。そう願うママやパパたちも一緒に楽しんでいただける音楽会です。

出演/喜古恵理香(指揮)、九州交響楽団(管弦楽)

第67回熊本県芸術文化祭オープニングステージ 「はじまりはじまり～県劇舞台づくり学校～」

9/21[㊤] 開演 14:00
 県立劇場 演劇ホール
【全席指定】
 一般 2,000円
※25歳以下の方、障がいのある方は、半額(献上鑑賞無料)

「はじまりはじまり」は県内の子どもたちと一緒に創り上げる舞台作品です。子どもたちのキラキラの想像力と夢いっぱい舞台にご期待ください!
 (本企画は青森県八戸市「八戸ポータルミュージアム はっち」で実施された「舞台づくり学校」を参考にしたものです)

演出/古家優里(プロジェクト大山)、大迫旭洋(不思議少年)
 出演/県内の小学生、小林暉作(スペシャルゲスト)ほか
 主催/熊本県芸術文化祭実行委員会
 協力/八戸ポータルミュージアム、プロダクション

行くぜ!劇場探検隊

2026年 開演 ①10:45 ②14:45
 2/28[㊤] 県立劇場 演劇ホール
 おとな 1,000円 子ども 500円
※対象は小学3年生～6年生とその保護者

劇場探検隊は、お芝居仕立てのバックステージツアー。調光室や音響ブースなど、劇場の裏側を探検します。

構成・演出/池田美樹(劇団きらら)
 第2部 作・演出/大迫旭洋(不思議少年)

市町村ネットワーク事業

県内各地で舞台芸術公演鑑賞の機会を提供するため、公演をプロデュースし、市町村ホールと共同で実施します。

演奏家派遣アウトリーチ事業

県内各地の学校やホールに演奏家を派遣し、生の演奏を間近で聴いたり、体験したりする機会を提供します。

各公演の詳細と全ラインアップは、熊本県立劇場オフィシャルウェブサイトでご確認ください!



2025年度 熊本県立劇場 年間ラインアップ

熊本県立劇場では劇場を拠点に県内一円に文化芸術の魅力をお届けします。今年度のテーマは「シアターアジア」のキックオフ。台湾をはじめとするアジアとの交流が急速に進む熊本で、文化芸術のゲートウェイとしての役割を果たすべく、国際色豊かな事業をラインアップしていきます。

今年度は台湾を代表するシヨナルオーケストラ・台湾フィルハーモニックを招聘するほか、日本語を母語としない俳優とともに創る話題作「宇宙船イン・ピトゥイン号の窓」を上演。また、コンサートホールホワイエに能舞台を設え上演する「ホワイエ新能」など、日本の伝統芸能を見つめ直し、発信する事業も実施します。

劇場を飛び出して実施する企画では、県内各地の市町村ホールでピアノや室内楽、邦楽、落語などの公演を予定。このほか、クラシック音楽と邦楽のアーティストが出前授業を行う「演奏家派遣アウトリーチ事業」として、地域の小中学校に音楽をお届けします。

2025年度も熊本県立劇場で、あなたの街のホールで、学校で、多彩なプログラムをお楽しみください。

2025年度 主催事業ラインアップの一部をご紹介します!

台湾フィルハーモニック(NSO国家交響楽団)

5/31[㊤] 開演 14:00
 県立劇場 コンサートホール
【全席指定】
 S席 6,000円
 A席 4,000円
※25歳以下の方、障がいのある方は、半額



台湾フィルハーモニック(NSO国家交響楽団)
 ©Tey Tat Keng

台湾が世界に誇るトップ・オーケストラ。音楽監督 準・メルクルと共に、待望の来航! 県劇が放つ「シアターアジア事業」第1弾です。

出演/準・メルクル(指揮)
 ボール・ホアン(ヴァイオリン)
 森 麻季(ソプラノ)
 台湾フィルハーモニック(管弦楽)
 蕭 泰然(シャオ・タイラン): フォルモサからの天使
 チャイコフスキー: ヴァイオリン協奏曲 二長調 op.35
 マーラー: 交響曲第4番 卜長調

宇宙船イン・ピトゥイン号の窓

① 8/2[㊤] ①開演 18:00
 ②開演 14:00
 ② 8/3[㊤] 県立劇場 演劇ホール舞台上
【全席自由】
 一般 4,000円
※25歳以下の方、障がいのある方は、半額



©前澤秀登

演劇における日本語の可能性をひらくため、演劇カンパニー「チェルフィッチュ」が日本語を母語としない俳優とつくり上げた話題作。2023年の初演から海外公演を経て、待望の日本凱旋公演!

作・演出/岡田利規
 出演/安藤真理、徐 秋成、ティナ・ロスネル、ネス・ロク、ロバート・ツェツェ、米川幸リオン
 製作/一般社団法人チェルフィッチュ
 共同製作/KYOTO EXPERIMENT

小曽根真 No Name Horses 20年目の the Day 1

12/18[㊤] 開演 19:00
 県立劇場 演劇ホール
【全席指定】
 S席 6,500円
 A席 5,500円
 B席 4,500円
※25歳以下の方、障がいのある方は各席2,000円引き



©鈴木陽介

世界的ピアニスト小曽根真が率いる最強ビッグバンド、3年ぶりの熊本公演! 結成20周年の節目に新メンバーを迎え、さらなる新境地へ突き進みます。

出演/小曽根真(ピアノ)
 No Name Horses(ビッグバンド)

肥後銀行Presents 第19回シヨパン国際ピアノ・コンクール 入賞者ガラ・コンサート

2026年 開演 19:00
 1/22[㊤] 県立劇場 コンサートホール
【全席指定】
 S席 15,000円
 A席 12,000円
 B席 9,000円
※25歳以下の方、障がいのある方は各席3,000円引き



ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団
 ©Wiktor Zdrojewski



アンドレイ・ポレイコ
 ©Michał Zagórny

世界的に最も権威のある音楽コンクールのひとつ「シヨパン国際ピアノ・コンクール」。その入賞者たちが一堂に会し、現地の熱狂そのままに華やかな演奏をお届けします。若きスターたちによる夢の競演をお聞き逃しなく!

出演/アンドレイ・ポレイコ(指揮)
 ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団(管弦楽)
 第19回シヨパン国際ピアノ・コンクール入賞者
 特別協賛/肥後銀行

■利用団体公演レポート

認定こども園 仁愛幼稚園 令和6年度たのしい発表会

2025年1月26日(日) 熊本県立劇場演劇ホール



5歳児によるミュージカル「白雪姫」の一幕。客席にはその様子を誇らしそうに見守るご家族の姿が



左が秋吉瑠璃さん。同じく「白雪姫」に出演した佐藤一生さん(中央)と熊谷蓮華さん(右)は「楽しかった!」と声をそろえます

穏やかな晴天が広がるうらかな冬の日、熊本県立劇場演劇ホールに弾むような愛らしい声が響きます。声の主は熊本市南区の認定こども園「仁愛幼稚園」(社会福祉法人仁愛園・徳永寛子理事長)の園児たち。年に一度の発表会として合唱やミュージカル、舞踊などを披露しました。

今年で創立61年目を迎える同園には0〜5歳の約290名が通園。「あそぼう!まなぼう!」や「やってみよう!」をテーマに、園生活を通して豊かに感じる心や自分で考えて行動できる力を育てています。毎年恒例の発表会は約30年にわたって熊本県立劇場で実施。伊形けい子園長はその理由を「発表会は学

びの機会のひとつ。熊本の文化芸術の拠点施設である県立劇場は「本物」を学ぶことのできる貴重な場所です」と話します。また、「本物のアーティストと同じ舞台を踏むことにも大きな意義があります。音響や舞台装置などのプロが園児たちを一人の出演者として尊重して接してくれるので自己表現の自信が付くようです」とも。

舞台上上がった園児たちは緊張の面持ちながらも、全身で表現する楽しさを満喫している様子。ミュージカル「白雪姫」でおばあさん役を演じた秋吉瑠璃さんは「終わってもドキドキしているけど、うまくできたからうれしい!」と弾む声を教えてくれました。

県立劇場ギャラリー

虹鱒

堅山南風(かたやまなんぷう)作

熊本県立劇場の館内に多数展示されているアート作品。今回は「虹鱒」をご紹介します。

演劇ホールのホワイエ(ロビー)に掛けられている絵画のうちの1点は、熊本市名誉市民昭和44年10月1日表彰で、昭和期を代表する日本画家の一人、堅山南風の作品「虹鱒」です。

熊本生まれの堅山南風は23歳で上京し、27歳の時、第7回文展(現・日展)に出品した「霜月頃」が横山大観の推挙で二等賞(事実上の最高賞)を受賞したのを機に大観を師と仰ぎ、大観らが再興した日本美術院に参加。93歳で亡くなるまで日本画壇の中心的存在として活躍しました。「虹鱒」は清冽な水中で水底に影を落とす2尾の虹鱒を描いた日本画で、69歳、円熟期の作品です。

記念展が開催される時には、県内外問わず出張することが多い絵画の一つですので、演劇ホールにご来場の機会がありましたら、ぜひじっくりとご鑑賞ください。

昭和31(1956)年 第41回院展出品作 紙本額装 152.5cm×137.8cm

THEATER MANNER 観劇マナー

劇場は「音楽の世界にどっぷり浸かりたい」「演劇をこころゆくまで楽しみたい」「子どもの成長を見届けたい」など、さまざまな目的で、さまざまな人が集まる場所です。みなさんが気持ち良く観劇できる環境を整えることが、劇場としての役割ですが、公演にいらっしゃるみなさんにも守っていただきたい、知っていただきたいマナーがあります。このコラムでは、観劇のマナーをご紹介します。



撮影・録画は原則禁止 著作権侵害にご留意を

待ちに待った公演の日、写真や動画を撮影して、思い出しとして残しておきたい。その気持ちはよくわかりますが、肖像権や著作権の侵害になることなので、基本的に公演中の撮影・録画は禁止されています。客席に入ったら一切撮影は禁止。公演中はもちろん、公演前や終演後も同様です。写真や動画だけでなく、音声録音も禁止されています。公演によっては撮影やSNS投稿を特別に許可されるケースもあるので、公演ごとに確認した方が良いでしょう。場合によっては、終演後の短い

間許可されることもあるので、撮影のタイミングなど約束事とルールを守って、公演の思い出の記録を残しましょう。



■熊本県立図書館「タイアップ企画」本の中にある劇場

熊本県立図書館 情報支援課 主事
山下 梢(さし)さま

絵のない絵本 愛蔵版

孤独な若い絵描きのもとに月が訪ねて来ては、毎夜異なるおとぎ話を語ります。物語の舞台は、ガンジス川のほとりであったり、パリのルーヴル宮であったり、大きな劇場であったり、田舎町であったり。登場する人物も老若男女と様々です。月が語るこれらのおとぎ話は、すべて月が前の晩に空から見た、世界で起きたあらゆる出来事でした。



ハンズクリスチャン・アンデルセン / 作
大畑未吉 / 訳 松村真依子 / 絵
岩波書店

ここで描かれる物語の多くは、作者であるアンデルセンが世界を旅する中での体験と印象がもとになっているといえます。どこか無力ささえ感じられる月の語りで語られる世界の物語は、もしかしたら今もどこかで起きていることなのかもしれません。その舞台となった地域の、文化や歴史などの知識がなくても、その風景を思うことはできます。しかし、劇場で行われる演奏会や演劇などの公演と同じく、背景や歴史、文化を知った上で読むと、別の視点や気付きが得られるかもしれません。

県立図書館とのタイアップは2007年度から続いています。このコーナーでは、図書館職員おすすめの一冊をご紹介します。

■県職員が本音を綴る「レリーコラム」

総務グループ
千々松 陽子(ひびつひよこ)さん

「韓国ドラマ」は生活の一部

2000年代初頭、「冬のソナタ」をきっかけに始まった韓流ブーム。私も韓国ドラマの虜になり、ロケ地巡りのために韓国を訪れるほどでした。しかし当時は今ほど視聴できる環境が整っておらずしばらく遠のいていたのですが、コロナ禍、話題となっていた作品を観たことで韓国ドラマ熱が再燃しました。今に至るまでの過程を見逃していたことが悔しくて、過去の話題作から最新作まで、これまでに140作品以上を視聴し、今も毎日観ています。

韓国ドラマの魅力を語るにはとてもこのコラムでは足りないのですが、特筆すべきは丁寧な人物描写です。主役はもとより家族や周りの仲間たちにもスポットを当て、その人物像や境遇がとても丁寧に描かれています。そのため恋人が宇宙人や人魚という突飛な設定でも違和感なく

感情移入してしまうのです。また、近年世界的に人気が高まり、映像の美しさや迫力も進化が著しいです。ジャンルも多岐にわたり、ストーリーや構成も凝ったものが増え、今まで恋愛ドラマばかりだと敬遠していた方もはまる作品が見つけれられると思います。俳優陣の演技力の高さも引き込まれる理由のひとつです。喜怒哀楽、その間にある複雑な感情まで表現する繊細さだけではなく、コミカルな動きや表情、アクションができる俳優も多いためです。お気に入りの俳優を見つけて登場作品をコンプリートするのもひとつの楽しみ方です。これといった趣味のなかった私ですが、韓国ドラマをきっかけに新しい仲間と出会い、初めての土地を訪ね、生活の幅はかなり広がりました。このコラムが韓国ドラマに触れるきっかけになると嬉しいですね。

■みなさまの声にお応えします！

プレイガイドのご紹介

県立劇場のプレイガイドについて詳しく教えてほしいという声にお応えして、今回はプレイガイドをご紹介します。県立劇場プレイガイドでは、県立劇場で開催される公演以外にも県内の公共ホールで開催される公演チケットをご購入いただけます。

チケットをお求めの際には便利な県立劇場プレイガイドをご利用ください。



県立劇場プレイガイドのチケットサイト。空席状況も確認できます

Q1 予約の手段は？
チケットサイト※、県立劇場窓口、電話予約にてお求めいただけます。チケットサイトではお取り扱いしている座席の空席状況がリアルタイムで確認できるので大変便利です。
※会員登録(無料)が必要です。

Q2 決済の方法は？
チケットサイトでは、クレジットカードまたはコンビニ支払い。県立劇場窓口では現金以外にクレジットカード、電子マネーやQRコード決済をご選択いただけます。

県立劇場チケットサイト



スマートフォンからのアクセスはQRコードから

寄稿

スタインウェイ社製ピアノ「625203」の弾き込みにご協力いただいたお一人
ピアニスト
塩津 貴子「しおつたかこ」



新たに県劇が迎えた
スタインウェイピアノに寄せて

県立劇場のピアノは、私にとって今も昔も変わらず特別な存在です。今回、新しいスタインウェイピアノを金子三勇士さんが選定されました。私もご縁あって弾き込みをさせて頂きましたが、嬉しさ反面、責任を感じました。何故なら、自分がこのピアノの持つ可能性をどれだけ引き出せるのか、という葛藤があるからです。しかし、1度の弾き込みではなく、何人もの方々が数か月に渡り弾き込んで、このピアノを育てていくことを知り、まるで子育てのようだ、とも思いました。

ピアノ1台が舞台上上がるまで。職人さんが何年もかけて魂を込めて作り、劇場に新しいピアノを入れるために尽力、選定されます。到着後、大切に管理、弾き込み、調律を経てコンサートへ。それを聴いてくださるお客様がいて。背景には壮大な物語が広がっています。

今後、様々な機会で使用され、どのような音色へと成長していくのか楽しみです。このピアノに関わった沢山の方々の思い、魂がその音色に乗って受け継がれ、お客様の日常生活に豊かな彩りを与えてくれることを願っています。